



平城遷都祭に参加した小佐小学校の児童ら

平城遷都祭で赤米を献上

5月3日と4日、奈良市で開催された平城遷都祭に小佐小学校の児童や関係者総勢55人が参加しました。昭和38年の平城京跡発掘調査の際、小佐から平城京へ古代米・赤米5斗を献納していたことを記す木簡が発見されました。その後、

小佐地域や小学校で平城京への献納を再現してみたいという思いが高まり、地域で赤米栽培を始め、小学校でも兵庫県教育委員会が提唱する「土曜ふれあい学級」の一環として取り組み、現在は「赤米のふるさと小佐に学ぶ」をテーマに掲げて学校・地域・家庭が連携しながら取り組みを継続しています。遷都祭に参加した一行は、昨年、小学校近くの田んぼ約6㍓で栽培した赤米を同祭実行委員会に献納しました。



海外の子どもたちとも交流を深めた田村さん(右)

田村菜穂さんが子ども環境サミットに参加

主要国環境相会合の関連事業として、5月22日から3日間にわたって神戸市で開催された「子ども環境サミット In KOBE」に、田村菜穂さん(八鹿町宿南、近大豊岡中3年)が参加しました。同サミットには、8歳から15歳までの日本代表30人と海外代表40人の子どもたちが参加。環境問題に関するビデオを見た後、海面の上昇や異常気象など地球温暖化によって予想される環境への影響などについて、4つのグループに分かれて議論しました。24日の閉会式では、「欲求を満たそうとする人間の行いが環境破壊の原因になっている」「地球を愛することを忘れないことが大切」「国際的な法律で安全な環境づくりを」など6項目の提言メッセージを発表し、各国の代表者に訴えました。

田村さんは「マイバックを使ったり、近くの店にはできるだけ歩いて行くなど、環境を守るために取り組みたい」と話しました。

夏山観光シーズンがスタート

夏山登山や林間学校など本格的な夏山観光シーズンを前にした5月10日、氷ノ山、八子高原、東鉢伏高原の夏山開きが八子高原交流促進センターで行われました。

参加した関係者約30人は、神事で夏山の安全と多くの観光客が訪れることを祈願。くす玉割りやレンゲツツジの記念植樹で夏山開きを祝いました。

近年の夏山入山者は約19万人。入山した観光客は、冷涼な気候の高原を中心に登山やハイキングなどを楽しんでいます。

氷ノ山鉢伏観光協会の一ノ本達己会長は「1人でも多くの方に訪れてもらい、この地域の活性化につなげたい。また、それが養父市全体の活性化につながってほしい」とあいさつしました。



テープカットとくす玉割りで夏山開きを祝う関係者